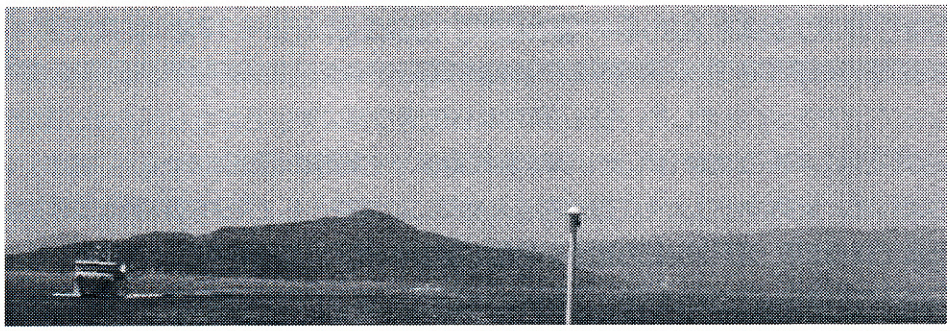
Vol.69　今、中部地方が元気だから　－三河から伊勢・志摩へ－　（平成17年8月10日）



梅雨の晴間を見て、君津を朝 5 時に出た私の車はゆっくりと走ったが、9 時には掛川付近まで到達。最初の目的地は渥美半島なので掛川で南下するか豊川まで行くかと一瞬迷ったが、豊川から入ることにしました。豊川から豊橋へ、更に目指す渥美半島までの沿線は中小の工場群で埋まっている感じでした。

新幹線から見る静岡～愛知への沿線でいつも思うことは大工場より中小の工場の多いことです。この中小の工場が中部地方の活力源となっていると私は思っています。

今回、渥美半島を選んだのは房総半島と同じ温暖な半島なので興味を持ったからです。6 月はちょうどメロンの季節でしたので、街道はメロンの看板と山積みされたメロンでいっぱいでした。この辺りは砂地で水源になる山がないせいか、水田が全く見えませんでした。先端の伊良湖岬・港から 10 時 50 分出航のフェリーに飛び乗って 50 分、伊勢湾を渡って志摩半島・鳥羽につきました。途中繁忙の噂の高い中部空港に飛来する機影を数えようとしたが航路が違うのか一機も見当たりませんでした。

志摩半島を南へ下り新宮から吉野を経て大阪へと考えてコースをとったが、紀伊半島のスケールを間違えていたらしくスペイン村から反転して北上、その日は白川郷の旧知の元村長宅へ泊めてもらうことにしました。村長未亡人が飲めないのに酒の相手をしてくれ、テレビを見ると天気予報が裏日本海側は明日豪雨、新潟地方は洪水・山崩れの危機だと報じてました。翌朝は早立ちして高山へ入り一回り、朝顔の軒垣を眺めながら雨をさけて南へと反転して群上八幡を見物。この古い町並みをどう営んでいるのだろうかと思いつつ、名物の赤肉桂玉、黒肉桂玉を土産に買って一路御前崎まで下る。かつてこの地には宮城まり子さんが「ねむの木学園」を創られ、当時は公的支援がなく全私財をはたいて運営しておられ大変苦労された地であります。

私は公的支援を受けられるよう応援に亡き妻と何度か足を運んだことのある懐かしい思い出の地であります。今は訪れる人も余りないようで、幾つかあるホテルも少し荒れた感じで夏の人出を待っているようでした。翌日は富士山麓の「毘沙門天寺」に寄ると運良く山主・高橋和尚が出迎えてくれました。和尚とは十年余りの交友があり、国宝「毘沙門天像」を特別開帳して護摩を焚き上げてくれました。

この巨大な山寺は「聖徳太子を従えた毘沙門天」のご開帳には 70 万人の信者が押し寄せるといわれています。

この旅で特に気づいたこと1，２・・・

①評判のよい観光地の特徴、

（イ）風物・景観がよいことに加えてその景観に似合った礼儀、親切心を土地の人々が持っておられること（ロ）店の主人やお内儀さんが店頭にいて客に親切丁寧な接待をされること。（関東より西の方がこの点は上手だと思います。）

②街づくりのあり方

（イ）白川郷、高山、群上八幡は古い建物、街通りを大切に守って、観光客に郷愁を与えてくれている。一般市民も、生活の不便をあえて受け入れ、街全体として観光産業を支えている。（ロ）新しい店舗作りは（a）店内がよく見えること（b）店内では厨房、裏方が見える方がよい（c）店内外の灯りはより明るい方がよい。夜間は尚更のこと暗い店より明るい店へ人が集るのは動物が餌を求める本能、条件かもしれません。